

令和6年度立川市長定例記者会見記録

日時・場所	令和6年8月26日(月)午後2時 ~ 3時40分	101 会議室
出席者	市側 酒井市長・近藤副市長・小林副市長	
	クラブ側 読売新聞・朝日新聞・NHK・東京新聞・日本経済新聞・共同通信社・時事通信社・都政新報・Jcom・いいね立川 合計 10 社	
司会進行	広報課長 五箇野	

【酒井市長】

どうも皆さんこんにちは。皆様には、平素より立川市の情報発信をしていただきましてありがとうございます。心から感謝を申し上げます。また本日は大変お忙しい中、私どもの定例記者会見にご出席をいただいたことを心から御礼を申し上げます。

まず初めにちょうど1年になろうとしております、昨年9月8日に、私は第23代の立川市長に就任いたしました。早いものでもう1年が経とうとしております。ちょうど今日から1年前は立川市長選挙の選挙戦が始まる前日というタイミングでございました。早いもので1年が経とうとしております。この1年間、私の思うところについて冒頭少しお時間を頂戴したいと思います。

私は、9月8日に初登庁をさせていただいたときに、市役所というところは市民の皆さんの様々な喜びや、あるいは悲しみ、困りごと、いろんな思いを持って市に来庁される方がいらっしゃると思います。市民の喜びには、ともに喜び、そして悲しみにはそっと寄り添い、そして困り事にはしっかりとそれを支えていける。そういった立川市の職員であってほしい。また、そのような立川市でありたい。そういった想いで市民の意見や市民の声、市民の困り事に寄り添う優しい社会環境を、立川市にあふれさせていきたい。このことを市の職員の皆さんに申し上げ、また市民の皆様方にも、お伝えして参りました。この間、数回にわたり記者会見等も行わせていただいた中には市民の皆様方や、あるいは私どもの情報をお伝えいただく、マスコミ各社の皆様方には、お詫びをしながらはいけない、そういった事象もございました。

その一方で、立川市が新たに取り組んでいるそういった内容についても広く報道をしていただきました。私自身これから来年度の予算編成に入っていきますが、若干この1年間、市長を務めていく中で、市民の皆様の中から市長が変わって、市の職員がだいぶ明るくなったねと言ってもらえることがございますが、私の感覚からすると、もっと市の職員の皆さん

が市民の皆さんのために色々なチャレンジやアイデアを出してほしい。果敢に挑戦してほしいという思いが大変強くありますのでそういった意味では少しまだ物足りないという思いもございます。

また市民の皆さんに対しサービス向上していこうという気持ちから、私も市長になってから、極力週初めの出張等がないとき、登庁したときにはこの本庁舎の中をぐるりと一周回って「おはようございます」と職員の皆さんにお声掛けをするのと同時に、市役所に来庁している市民の皆様方にも「おはようございます」「いらっしゃいませ」「お待たせをいたします」と声掛けをなるべくするようにしております。少しでもトップリーダーとして自分自身の姿を市職員の皆さんにも見てもらいながら感じ取ってもらい、ホスピタリティとは何なのか、お客様をどういうふうを迎え入れるのかということなどをぜひとも市の職員の皆さんにも感じ取って欲しいなと思って、ずっとこのことは続けて参りました。

ただその一方で、私が市長になる前と実際になった後では少し見え方が違ってきている部分がございます。私も市長になる前は都議会議員をしたり、また浪人をしていたりということがありますので、ある意味、市の庁舎の外から役所をみておりました。ちょっと言葉が汚いかもしれませんが、なんて気が利かないのだろうと思うこともございました。現在も若干そういうふうと思うところも無くはないですが、実際にこの裏側から市の職員の職場環境というのを見てみると、皆さんも入ってきてわかるように、この1階のフロアの部分はお客様対応しているところについてはそんなに狭隘感は感じません。しかし、一步裏に入ると本当に背中がぶつかるような環境の中で市の職員が仕事をしているというような状況もございます。とても快適な職場環境とは言えない状況にもあります。

また東京都ではカスハラ条例というものも作ろうという流れにありますけれど、市の職員の方々もいろんなお客様対応する中で、基本的には市民の皆さんにしっかりと寄り添って、丁寧な対応をとということが基本ではございます。しかしその一方で、他の市民の皆様方に対するサービスを阻害するような、そういった過度のご要求をされる、そういったお客様もいらっしゃいます。これは民間企業でも同じことであろうと思っております。基本的にはお困りごとに対応していこうということは原則ではありますが、その一方で、ある特定の方にのみ対応していると、そのことが他の市民サービスに影響を及ぼす場合や、あるいは当然その1時間2時間という話になってきますと、時間外勤務手当が増えると、これは広く市民の皆さんの利益を損することになります。今後私の目標としては、市民の皆さんに向けた最高の市の行政サービスを提供していく、その前提として市の職員の皆さんの職場の環境を改善していく事。このこともあわせて考えていかななくてはいけないのではないかと考えております。

このことを今、専門員として内部統制に関する専門員とDXの推進の専門委員お二方をお願いしております。その専門委員の方に私の考える立川市役所の改革についての思いを伝えたときに、市長それはリッツカールトンホテルの精神と同じですねと言われました。そ

うなのかと初めて知りましたが、その高級ホテルのサービスまでいかないわけですが、市長の心意気としては職員の皆さんもお客様と同時に、紳士淑女であるというそういった思いでしっかりと職員の職場環境の改善を図りつつ、気持ちにゆとりを持って市民の皆様方の市民サービスの向上へと繋げていけるような立川市役所の改革に取り組んでいきたいと日々思いながら一つ一つ課題の解決に取り組んでまいりたいと考えている次第でございます。

1年間振り返りますと、学校給食の無償化を初めとして、私が50項目掲げた政策のうち、お金のかかることを初めとして、多くの部分は1年目で取り組むことが叶っております。具体的には、また改めてお知らせをする機会もあろうかと思っておりますけれども今後とも市長公約のみならず、市民の皆様方が暮らしやすい、子育てしやすい環境を、そしてお年を召しても、アクティブシニアの皆様が街を闊歩できるような、そういった環境をしっかりと、立川市の中で構築をし、そして、この立川市が他市から引っ越してきてもらえる、さらにお客さんも増えるそういった街にしていけるように取り組んでまいりたいと思っておりますのでぜひとも引き続き、記者の皆様方にはご注目をいただければと存じます。私からのこの1年間の所感をお話させていただきました。

次に本日議会運営委員会が行われ、委員の皆様方にもご説明した内容について若干お話をさせていただきたいと思っております。今定例議会についてでございますが、令和6年第3回市議会定例会を8月30日、今週の金曜日に招集いたしました。今定例会では皆様方、お手元にお配りをさせていただいております令和5年度立川市一般会計歳入歳出決算など、当初提出をした議案が17件となっております。

令和5年度の決算の詳細につきましてはお手元の決算関係資料を後ほどご覧いただきたいと思っておりますが、決算に関連いたしまして1点お伝えさせていただきたいことがございます。これは他市の首長さんも記者会見等である都内の区では100億円流出をしているというお話が出ているふるさと納税に関してでございます。

このふるさと納税に関しましては様々な議論があり、総務省等でもいろいろな新たな方針というものも出されているということでございますけれども、本市においても本当に看過ができない状況になってきております。令和5年度の決算におけるふるさと納税による市民税の流出額は7億1781万円で、前年度比17.1%の増となっております。この7億円という金額、何に匹敵をするのかと申しますと、令和6年度から開始した学校給食の無償化に要した事業費7億5000万円でございます。約半額は東京都が補助をしてくれるということで中学生まで拡大をすることが叶いましたけれども、こういった額に匹敵をする額でございます。それに対して、ふるさと納税による受領額。立川市が、寄付をしていただく金額は2378万円という数字で約7億円弱、差し引きで立川市から財源が流出をしてしまっているという、大変危機的な状況でございます。

毎年、約 1 億円ずつ流出額が増えていくという状況で既に令和 6 年度が始まっておりまして最終的にいくらになるのかということでございますけれども、これについても、今日の段階で流失額が約 8 億円を超えているという試算が出ております。こういった状況の中、逆に寄付をしていただく金額は、2378 万円とお話を申し上げました。この中には、昨年度私が就任してから取り組みました、ガバメントクラウドファンディングにより集まりました「夜のユースセンター」事業 300 万円を目標にさせていただきましたけれども結果としては 360 万余円のご寄付をいただくことができました。こういった努力を行っていても、毎年流出額が増え続けるということは大変深刻な問題でございます。ぜひともこういった場を通じて市民の皆様方にはこの町の様々な新規事業や、あるいは子育て支援の問題、福祉の問題、その財源が流出をしてしまうと、なかなかやりたくてもできないという、そういった状況に陥ってしまいます。ぜひとも市民の皆様方にはよくよく考えていただきたいと思っております。

また同時に何も立川市がやらないのでは寄付が集まりませんので、昨年取り組んだ社会問題を解決していく取り組みについては、対象事業を募りまして広げていきたいと思っております。私はあまり通販ショップでの返礼品合戦のような下品な競争にあまり与しいとは思っておりませんが、何もやらないというわけにもまいりませんので、まずは返礼品なしで、社会問題解決型のふるさと納税のそういったメニューを増やしていきたいと思っております。

また立川市内においても隠れたる立川市の資源をまだここで発表する段階ではないですけれども、そういった資源をしっかりと活用しながら、この流出額というものと収入額の差を縮めていきたいと思っております。また今回、ガバメントクラウドファンディングを行って一つ気がついたことがあります。「夜のユースセンター」という社会問題を解決しようという、この記者会見の場でも立川市の心意気にぜひとも賛同していただきたい。返礼品なしです。お肉もなければ果物もありませんというお話をした記憶がございますが、このご寄附をしていただいた方の中には、市外の方だけではなくて市内の方も、この心意気を感じていただいでご寄附をいただいている方もいらっしゃいます。そのことを考えたときに、なんだろうなとふと思いました。これは、私自身がこれから行政運営を行っていく上で、一つ心がけなくてはいけないのは、ふるさと納税で色々なものを欲しいということが、当然あるのかもしれないが、その根底にあるのは、立川市政、これはどこの行政でも同じだと思いますが、市民の皆さんが行政を信頼していないのではないかと思います。自分たちの納めた税金が本当に有効に使われている。自分たちの思う、そういった使われ方をしている。そういった選択をしている市民の方が、立川市のふるさと納税で社会問題解決型に納税をしていただいているわけですので、やはり市長としてはこの市民の皆さんに対して立川の市政が信頼をしてもらえらるようなそういった行政運営を行っていくこと。このことを心がけつつ、施策を展開していく。ただ単にふるさと納税しないでくださいというだけのお話ではなくて、

行政としてあるいは行政の長として考えていかななくてはならない課題は、行政への信頼度を上げていく。このこともセットとして行っていく必要があるのではないかなと感じているところがございます。こういった機会を通じて、ふるさと納税ではぜひ目先の利益ではなくて将来の立川を考えていただきたい。そして立川市はしっかりと、その市民の皆さんの期待に応えるような税金の配分、使い方を考えていきますというメッセージを、各マスコミの皆様方には周知をしていただけると大変ありがたいなと思っている次第でございます。

次に決算以外の話題といたしましては6点、お知らせをさせていただきたいと思います。一つは補正予算に関わる課題でございますが、お手元に配付をさせていただいております資料1をご覧くださいと思います。これは妊婦インフルエンザ予防接種助成事業というものでございます。

立川市においては前市政時代から小学生までのお子さんに対するインフルエンザの予防接種の助成事業は行って参りました。これに加えてでございますが、私が5年前の市長選挙のときに一つの政策課題として、提案をしたものでございます。安心して子育てができる環境を整えていくという私の公約の柱の一つでもございます。この公約を進めるために、新たな支援策として従来は子ども、小学生までというカテゴリーでございましたけれども、妊婦の方を対象にしたインフルエンザ予防接種助成事業を開始したいと考えております。なぜ妊婦さんなのかということは、釈迦に説法かもしれませんが当然子どもがお腹に宿った後、妊娠期間中はなかなか薬を飲むことに注意される妊婦さんの方が多いと思います。また実際に妊娠中にインフルエンザに罹患すると重症化しやすいと言われている。妊婦の方の重症化の予防と出産前から、立川市の子育て支援は、子どもが生まれてからではなくて、お腹に宿ったときから子どもたちの命を守り、またお母さんの安全を守っていくそういった市政でありたい。そういった思いで、今回このインフルエンザの予防接種助成事業の拡大という形で妊婦さんへの対応をすることをさせていただきました。

対象は妊娠届を提出した市民で、妊婦の方でございます。助成金額は1500円で接種期間は令和6年10月1日から、これは補正予算が議会でお認めをいただいたということが前提となりますけれども、10月1日から令和7年1月31日までとしたいと考えております。流行期に間に合うようにと考えております。妊婦の方に対するインフルエンザ予防接種事業は、東京都もいろいろと補助事業を考えていますが、でも東京都の補助事業には、多少問題がございまして、今立川市がやっているような小学生への接種助成に、半分出してくれるのかなと思ったなら既に実施している自治体には補助しないという要綱がございますので、該当にならないとのこと。その一文がなければ、立川市の財政負担軽くなり、逆に中学生にも拡大できるのにといい思いもあるわけで、副知事等にも先日市長会の際に直接お話をしたところ。その部分については今後要請・要望していきたいと思っておりますが、当面は立川市ができることとして妊婦さんへと広げたいと思っております。

本市調べという注釈が入りますけれども、この妊婦さんへの助成については都内では初め

てということになるかとは思いますが、ファクトチェックにつきましては、記者の皆さん行っていただけるとありがたいと思います。全国的に多い事例ではないというふうに認識をしておりますので、立川市の子育て支援として、お腹に宿ったときから子育て支援だという部分でご理解をいただければと思っております。

続いて2点目について、資料2をご覧くださいいただければと存じます。長期欠席児童への給食提供試行実施でございます。既に多摩地域の近隣市でも実施をしているところがございます。先行して実施していて素晴らしいなという思いがある中で、当市の職員もやってみたくていった現場からの声も上がってまいりましたので、試行実施という形で今回取り組みをさせていただきたいと思っております。

なぜ試行なのかということですがこの後、立川市の制度設計、現場の職員が考えた設計でございますので、一旦これでやってみて不都合があれば、より改善をして本格実施に繋げていきたいという意味での試行ということでご承知おきいただきたいと存じます。長期欠席児童へ給食を提供するという事で、少しでも家の外に出るきっかけを作っていきたい。家族以外の人と交流をする機会を作り、孤立化を防ぐことなどを目的といたしております。実施内容といたしましては、立川市立の小学校の長期欠席児童の希望者および付き添いの保護者を対象に、毎週木曜日の12時30分より新しくオープンをいたしております。東調理場の会議室において給食を提供したいと考えております。定員は1日5組程度で喫食する1週間前、7日前までに申し込みをお願いしたいと思っております。私的にはこの7日前というところはどうかかなという思いがありますけれども、一旦これで実施したいと思っております。なお参加費用につきましては児童について給食費は食材費無償化をいたしておりますので、当然無料でございます。付き添いの保護者の方等につきましては大変申し訳ございませんが、食材費として306円ご負担をいただければと考えております。ぜひともこの取り組み2番煎じ3番煎じかもしれませんが、記者の皆様方には広く周知をさせていただきたいと思っております。しかしその一方で対象者が長期欠席児童ということもありますので、実施日にその現地での取材については大変申し訳ございませんけれども、ご遠慮をいただければと思っております。

今回こういった事業をさせていただくのですが、私もよくふらっと通りがかりの市長ですということで、いろいろな方とお話をさせていただく中で、私の聞いた1人の校長先生だけですので、全校的に波及をしているという話ではないということを前提としてお話をさせていただきますが、今回東京都の助成金が得られるということで、但し書きとして東京都がお金を出してくれている間は中学校の給食費も無償化をしていこうという形で実施中でございます。ある中学校の校長先生とお話をしたときに、「市長。給食無償化ありがとうございます」と言われました。中学校は今まで、事前申し込みが必要なスクールランチ方式でお弁当。また、学校給食共同調理場で給食が始まった後も料金を納めていただいております。しかし、今年度からお金をもらわなくてよくなったので長期欠席をしている子どもに給

食だけでも食べにおいでよと案内をしたところ、そのある学校では二、三人の子が、給食だけでも食べに行こうかなというふうな形で学校に来られるようになったというお話を聞きました。

この学校給食の無償化については、一義的には保護者の皆さん、大体月 5000 円ぐらいの教育費の負担の軽減ということで取り組みをさせていただきましたけれども、副次的な効果としてそういうこともあるのだと私もそのお話を聞いたときには大変嬉しくなりました。それぞれ学校の校長先生のお考えもあろうかと思いますので、無理やりに声を掛けろという話ではないですけれども、この学校給食の無償化が長期欠席児童や生徒が社会と関わりを持つ、また学校と関わりを持つ、その一端を担ったことについては大変嬉しく思っております。そういった想いもさらに広げていくために、今回試行実施という形で今お話をさせていただいたことに取り組んでいこうと考えております。

続いて3点目は、フードシェアリングサービス「おたすけタベスケ立川」の導入でございます。ネーミングは担当の職員が考えました。上手いなと思うかまいちと思うかは皆さんの感じ方だと思いますが、私自身は中々いいね、楽しいねと思っております。資料3をご覧くださいと存じます。この事業も私の公約の一つでございます。フードロスの削減を進めるために、これは担当の主管課で考えていただいたものが、いよいよ実現、スタートをするものでございます。

内容といたしましては破棄になりそうな食品を抱える事業者と、その食品を購入したい市民の方をマッチングさせていくサービスでございます。このサービスの導入により市民の方は食品を安く手に入れることができ、また、今まで知らなかった新たなお店の発見に繋がるといことが期待されます。一方で事業者の方にとっては収益の確保や、また廃棄費用の削減に繋げることができますし、今まで自分の店を知らなかった方々に自分の店を知っていただけるという、そういった副次的な効果もあろうかと思います。市にとっても、フードロスという社会課題の解決や事業系のゴミの減量に繋がるといことが期待されます。私は日頃何かやる時には立川市だけが得をするとか、誰だけが得をするということではなく、お互い様の精神であり、あるいは私の大学の恩師が近江の出身で、近江商人がよく言っているのは三方よしと、大岡裁きは三方一両損でありますけれども、近江商人は、この場合で言えば安く買える市民も嬉しい、事業者も知ってもらって、事業系ゴミが少なくなって市もゴミの排出量が少なく、まさに事業者市民立川市の三方よしという、そういった取り組みでございますので、ぜひともの皆様方には立川市こんなこと始めるということを周知していただいて、これは事業者の協力がないとなかなかできない話でございますので、そういった事業者の方にも知っていただく、メリットを感じていただけるように皆様方にも広報、周知にご協力をいただければというふうに思っております。

続いて4点目は、ファーレ立川アート30周年記念事業についてでございます。資料4を

ご覧いただければと存じます。ファーレ立川アートは、多摩モノレール立川北駅周辺の町並みの中に設置をされた世界 36 カ国 92 人のアーティストによる 109 の芸術作品群で、立川市が世界に誇るパブリックアートでございます。平成 6 年に完成したファーレ立川アートは今年 30 周年を迎えます。私が政治家になったのも平成 6 年でございますので、まさに私の政治家人生と同じ期間を歩んできているというこのファーレ立川アートでございますが、その中でその 30 周年という節目にあたって、10 月に開催するファーレ立川アートミュージアムデーにおいて 30 周年記念事業として記念セレモニーやシンポジウムを行うとともに人気作品をモチーフにしたオリジナルグッズの販売等も行っていく予定でございます。ぜひとも記者の皆様方には 10 月でございますけれども、お越しをいただき取材をしていただければと存じます。

続いて 5 点目についてでございます。これは立川電子図書館による輪島市への支援期間の延長についてでございます。資料 5 をご覧いただければと存じます。これは先に記者会見の場でもお話をした、遠隔地からでもできる支援の一つの方法として、東京都内ではおそらく初めて、全国的には京都について 2 例目というお話を当初させていただいていたと存じます。能登半島地震被災者の支援事業の一環として本年 3 月より、石川県輪島市の小学生、中学生等に対して立川電子図書館の電子書籍読み放題パックが閲覧できるサービスを提供しております。当初の予定といたしましては 8 月末で終了予定といたしておりましたけれども、この提供期間について著作権を持たれている会社のご協力ご理解をいただき、また相手市の輪島市さんも引き続き利用したいというお話がございましたので、この著作権を持っている株式会社図書館流通センターのご協力により、令和 7 年 3 月 31 日まで延長するということになりましたので、お伝えをさせていただきたいと存じます。

だいぶ図書館等も開館をしているようでございますけれども、輪島市のコンテンツだけでは物足りない部分については、立川市の電子図書館をご覧になっていただければと思っております。引き続き立川市といたしましても、輪島市の復興に向けて立川市としてできる遠隔地からでもできる支援策については、取り組みを継続していきたいと考えております。

最後に 6 点目でございます。これは立川競輪場で開催をするイベントを自転車で作るチャリ氷でございます。まずはこちらの動画を見ていただければと存じます。立川市の YouTube チャンネルに動画が掲載をされております。私の市政になってから立川市動画チャンネルを充実させていきたいということで、広報課やシティプロモーション課でだいぶ自走化をしてみました。自分たちで考えて、外注に出すこともあるでしょうけれども、ほぼ庁内で作成して動画を掲載しております。詳細についてはぜひご覧になっていただきたいと思っております。この動画の中に出てくる自転車をこいでかき氷を作るという実際のイベントを立川競輪場の本場開催日 9 月 7 日土曜日および 8 日日曜日の 10 時から 15 時に実施する予定となっております。大人から子どもまで楽しめるイベントとなっておりますので、記

者の皆様方にもぜひ取材に来ていただき、チャリ氷を味わっていただきたいと思います。この他にも競輪選手のトークショーなども予定をしておりますので、多くの方にご来場いただきたいと思っております。

繰り返しになりますが、先ほどご覧をいただいた動画を始め立川市は、動画での情報発信に力を入れております。皆様方にはぜひ YouTube、立川市の動画チャンネル登録をしていただいて、通知のところもポチッと押していただいて、ぜひとも「いいね」評価ボタン押していただけると作り手の方もやりがいにもなりますのでご覧になっていただければと思っております。立川市の動画チャンネルを見ると、その後私の酒井大史の立川解説チャンネルという動画もみたくなるのではないかなと期待をしているところがございます。ぜひ一度お目通しをいただければと存じます。報道機関の皆様方には、本紙に関する一つでも多く取り上げていただくことで、多くの方が立川市に関心を持っていただき、ひいては立川市に愛着を感じていただきたいと考えております。

これからも様々なメディア媒体また SNS 等も活用しながら、また市長自らうろちょろしながら、立川市の情報発信に努めて参りたいと存じますので皆様方にはご理解ご協力、ご注目を賜りますよう、これよりお願いを申し上げ私からの本日記者会見に当たっての発表とさせていただきますと存じます。この後皆様方からのご質問を一つ一つお受けをさせていただきますので、よろしくお願いいいたします。ありがとうございました。

【読売新聞 水戸部記者】

最初に二つお伺いします。就任して1年の所感のなかでも触れられた、学校給食無償化について、都知事選も終わりました、都知事も多摩地域の学校給食費の補助については交付金も考えているとおっしゃっていたかと思うのですが、それについて既に無償化されているのですけれども、多摩地域にそういったことをされるといふ報道されたことについて、受けとめをまず1点お伺いしたいと思います。

もう一点ですけれども、ふるさと納税の流出額がこれだけ多くなっているということについて、一方で、返礼品競争にはあまり加わりたくない。まずは社会問題解決のためということですが、確か昨年度は育て上げネットの件が1件あったと思うのですが、年末にかけてふるさと納税が活発化していくなかで何か具体的に増やしていく方法があるのか教えていただきたい。

【酒井市長】

ありがとうございます。まず1点目の学校給食についてでございますが、私の選挙公約で、立川市の財政力を考えたときには、小学校のみであれば可能であるということで選挙公約に掲げさせていただきました。この点については私が市長である限り、継続をしていきたいというふうに思っております。その一方で、今年度においては東京都が半額助成をしてくれるということで

ありますので、中学生まで導入をしても、私どもが小学生で4億数千万円という金額を予定しておりましたので、その分が減額をされるということで例え中学生は期間限定であっても、これを活用しない手はないだろうと。議会でも覚悟はとかいろいろお話をいただいたところですが、覚悟なんてそういう話ではなくて東京都からいただけるものはいただいて市民の利便に供することが、市民サービスだと思っておりますので、そういった思いで導入をさせていただきました。

今回東京都知事選挙が終わって、やはり多摩地域の中では半額出してくれても取り組める市と取り組めない市がある。立川市にとっては大変ありがたい話であったわけですがけれども、その一方で近隣市ではなかなか取り組めないという市がございますので、そういった中では都知事がおそらく全額を出してくれるのか、4分の3なのか詳細についてはまだわかりませんが、そういった取り組みをしていただけるという部分についてはありがたいなと思っております。

この問題、本来であれば国がやるべきことだと思います。小池知事が言うように私も国がやってくれるのが一番だと思っておりますけれども、それまでの期間、東京都がやってくれるということは、いろいろと立ち位置は違うかもしれませんが小池知事さすがですね、ぜひ進めたい。ただし、先ほどのインフルエンザのように既に導入をしているところは今まで通りということがないように、26市、町村もございませけれども、同じような補助率で100%見てくれるのであれば、立川市も2分の1じゃなくて、100%見ていただけるような制度設計にしていきたい、「やっぱり小池さんいいですね」という話に繋がるのかなというふうに思っております。

これが一点目のご回答です。

次にふるさと納税についてでございますが、社会問題解決型ということで試行実施として、昨年育て上げネットさんの夜のユースセンターについて、取り組ませていただきました。この成功例というものを踏まえた上で立川市としても要綱を作って、新しく応募をしていただけるような仕組みを作る予定にしております。これから年末にかけてが、ふるさと納税の主戦場でございますのでそこに間に合うように、また育て上げネットさんにもう1回申し込んでいただいても全然構わないのですけれどもそれ以外に、立川市内でそういった社会問題に取り組んでいる団体をふるさと納税という形で応援していく、取り組みを広げていきたいというふうに思っております。

現段階で、どこがあるとかそういうことではなくて、そういった制度をしっかりと構築をしていきたいというふうに考えているところでございます。

近いうちに、12月の定例会の前ぐらいには皆さんにこんなところから応募がございましたということをご報告ができればいいなと思っております。以上です。

【読売新聞 水戸部記者】

学校給食について、現在中学生には助成していないのでしょうか。

【酒井市長】

ご説明申し上げます。小学校も中学校も立川市の市立学校に通う子どもたちからは食材費を徴収しておりません。結果として、ただです。その財源をどうするのかという話ですが、元々は立川市の財政事情から言うと、私の選挙公約にあるように、小学校で精一杯だと思っていたのですけれども、東京都が2分の1を出してくれるということですので、中学校まで広げても約7億数千万円でございますけれども、その半分で済むということで中学校まで無償化をしていくということです。

【日経新聞 秦記者】

ふるさと納税に関するお話があったのですが、この決算書の見方ですけど、ふるさと納税で7億円近く、流出したということですが、この決算書を見ると、個人市民税が43億5000万のよう

【酒井市長】

個人市民税が、その分入ってきていないと本来の収入額から入ってこないという話です。詳しい決算書の見方については、後ほど決算書を見せながら説明しないとご理解いただけないと思いますので、後ほど後ろの方に財政担当の部長がおりますので、ご説明をいたします。

【日経新聞 秦記者】

今年度予算の中で、この部分がなくなったので、この政策ができなかったという、あんまり具体的には言いづらいかもしれませんが、こういうことができない、したいのに出来なかったっていうような、何かご感想があれば。

【酒井市長】

実際にこれができなかったということについては、この流出額というのはある意味、結果を皆様方にお知らせをしております。でもこのトレンドから言うと、令和6年度も当初見込んでいた税収見込みよりも、要は入ってこないという可能性があります。所得税と違って現年課税ではないので、地方税というのは今年の所得の確定申告の結果を受けて、来年度お納めをいただく税金という形で影響がちょっと1年ずつずれていくので、直ちにどうという話ではないんですけれども、ただこのトレンドを見ていくと、毎年1億円ずつ増えていくのかということを考えてみると、これから予算編成段階においてはそのこともしっかりと留意をして税収が減ってしまうということを踏まえた上での新規事業を考えていかななくてははいけない。あるいは事業のスクラップアンドビルドも当然考えていかななくてはなりませんし、そういった思考回路の中では、当然大きな位置を占めていくということで、これが減ったからこの事業ができないというすぐに連結をするという話ではないものと考えておりますが、これがどんどん増えていくと、いろんなことをやっていこうというマインドはどんどん抑制をしていくということに繋がるでしょ

うし、将来的には行政の財政の硬直化ということにも繋がっていくと思います。

経常収支比率はおかげさまで前市政の時から他市に比べると良い状況にありますけれども、そういった部分についても、基準財政需要額はどんどん増えて参りますけれども収入額のところにもこの市税収入が減ってくると影響してくると思いますので、財政の健全化に影響してくると思っております。

【Jcom 儀賀記者】

先ほど出た学校給食ですとか、少し前に中高生の進路の説明会とか、子どもたちへの支援の取り組みにける想いを一言お聞かせいただけますか。

【酒井市長】

今国全体で合計特殊出生率が下がってきています。また東京都の値よりも確か立川市の値は若干低いのかな、全国と比べても確か低かったと思います。そういった中、立川市で子どもたちを産み育てやすい環境を構築していきたいというマクロの意味での子育て支援策に取り組んでいきたいということと、またその中で、その子どもたちのそれぞれの育ちに関して、私の目標は立川市から将来的にはずっと立川市に住んでほしいという思いはあるのですが、やっぱり国の宝ですから子どもたちは、海外に羽ばたいてほしいんですよね。海外に羽ばたいていけるような子どもたちをいかに育てていくのかということからいうと、海外に出たときに、君どこから来たのと言われたときに、I from ジャパンとかI from 東京じゃなくて、I from 立川と言ってもらえるような、そういった立川市としての子育て施策、あるいは子どもに関わる、それぞれ1人1人の子どもをしっかりと大切にしているんだよということ子どもたちにも感じ取ってもらえるような施策を子育てという大きくりの部分と、それぞれの1人の個に注目をした取り組みとを併せて行っていきたい。これが学校給食の問題というちょっと大きい子育てという部分で言うと無償化。無償化の波及効果として、長期欠席児童や生徒がこうね、社会との関わりを持ってもらえるきっかけを作るということは、個人にフォーカスをするということだと思いますので、そういった一つの取り組みを行っていく中でも、二重三重と効果を生んでいけるような取り組みも意識をしながら行っていきたいなというふうに思っています。

【東京新聞 松島記者】

立川市とは関係ないですけども昭島市長選が近くなっておりまして、一つの争点になるであろうと考えられるのが、物流倉庫の問題があると思うのですが、昭島市の問題ではあるが、立川市も交通量の増加は立川市も関わってくる話かなと思う中で、立川市としてはどういうことをお考えでしょうか。

【酒井市長】

昭島の地でデータセンターと物流センターということで、これは市域的には昭島市の中です

ので、人様の市の中のことにとやかく隣の市の市長が言うべきではないと思っておりますが、ただその影響というものは、大型トラックが一日どれだけ通るのかと、特に立川市における問題は、その物流倉庫が建設される予定地の近くにある西砂小学校というところが今とにかく子どもたちがどんどん増えている学校でございます。やはり通学路の安全対策については留意をしなければいけない課題だと思っております。環境影響評価書に対する意見を当然昭島市さんは昭島市さんで、立川市も立川市として東京都からの問いかけに回答しておりますけれども、その中では通常あまり交通問題、交通量のことについては触れないんですけども、あえて立川市からの回答の中では東京都の環境影響評価に対して交通量の問題について、記載をさせていただいております。それと合わせて実際に今後の推移を見守りながらなんですけれども、地元の自治会の皆さん等からは交通規制の問題であるとかそういった話をされております。

私も市長になる前は都議会議員でございましたので、頭の体操という形で、当時、警視庁の方に問い合わせをして、せめて朝の通学時間帯だけでも時間帯交通規制というもの、時間帯におけるトン規制ですね、トラック何トン以上は駄目みたいなそういった規制の仕方っていうのは法律上できないものなのかということをお問い合わせした経緯があります。回答としては制度としてはできるというお話をいただいております。ただ実態としては、そこを規制すると他のところに当然車が流れていってしまうということで、その例えば西砂小学校の通学路だけの問題ではなくて他にも波及をしてしまうということなので、警視庁として実際にそういった交通規制をやるということについて、制度上はできるけれども実際にやるとなるとなかなか調整が難しいというそういった回答を都議会議員のときには得ておりました。

そういったこともございますので、交通規制の問題については、これは東京都の警視庁の所管でございますから、立川から選出をされている伊藤、鈴木両都議に対して私の方からも都議会議員の経験が長いということもありますので、こういった問題の地域からの要望については、どういうルートでどういう話し方を、どういうお願いの仕方をしたら良いのかということをお大変僭越ながら両都議にはお願いをしながら、ちょっとこういったところをお願いをしていただけないかというお話をさせていただき両都議からは警視庁の方に、そういった地元の要望を含めてお伝えをいただいているという、そういった回答をいただいております。交通規制は、警視庁の所管であります。また、道路の整備については立川市、市道は立川市ということになりますけれども、そういった状況を見ながらさらに追加で何かしなくてはならないこれは対症療法という形にしなければならないわけなんですけれども、行っていかなくちゃならないのかなというふうに思っております。

なかなか根本的に立川市としてそこを作っちゃ駄目とか何とかっていうことが言えないところが大変もどかしい思いで、おります。

【時事通信社 又坂記者】

ふるさと納税にちょっと戻ってしまうのですが、ふるさと納税制度そのものに対する、スタンスとしては、廃止すべきだというお立場でよろしいですか。

【酒井市長】

基本的には私は廃止した方がいいと思います。今の制度であれば。一番最初の導入当初、確か菅元総理が総務大臣のときだったのかな、私ちょっと記憶違いだったら申し訳ないですけど、その当時は自分の生まれ育ったところを、故郷に対して人口減の中で大変だから納税をするというところが基本だった。それは崇高な話だと思っていたので、その当時は別に反対でも何でもなく、現状を見ると、通販ショップ、返礼品をこうね、目当てにしているというところがどちらかというとと主になってしまって、そういうこともあって、立川市は、それも全くしないわけではないわけですが、ただそれだけではなくてそういうことの競争にくみするのではなくて、社会問題解決型っていうところを少し立川市としては推していきたいなというふうに思っておりますが、基本的にはふるさと納税は廃止していただいた方がありがたいと思いますし、やはり地域の住民は地域の行政サービスを受けるために、地方税を納税して頂いているはずでございませので、そういった地方税の原則に、私は反しているのではないのかと思っております。

また立川市の問題で言えば、多分これも地方交付税の不交付団体と交付団体の壁があると思うんですけども、これ地方交付税の交付団体ですと、最終的に流出額と納税額のその差額の部分の4分の3は交付税で補填されるんですよ。実質的な影響は4分の1だけなんです。ただ立川市を初めとした不交付団体は100%影響してしまうという、そういった問題がありますので、今の問いかけから言うと、原則は廃止してくれる方がありがたい。ただ、廃止をしないのであれば、地方交付税の交付団体と同じように4分の3はこれは国の制度で導入をしているのであるから地方財政を考えると、不交付団体と同じように4分の3は国でちゃんと面倒をね、補填をしてくれるということを含めて考えていただきたいというのが私の率直な思いです。

【時事通信社 又坂記者】

それともう一つ、先ほどの返礼品との関係で、社会問題解決型について、私の方が認識を取り違えているかもしれないが。返礼品なしで、社会問題解決型のクラウドファンディングにお金が集まるっていうことは、逆にそれは市政が信頼されていないことではないか。

【酒井市長】

先ほど私の文脈としてお話を申し上げたのは、この社会問題解決型のメニューを作ったときに、立川の市民の方も、それに共感してくれている人が出ているんですよ。よく昔、選択納税っていう議論ってありましたよね。だから選択納税的なみたいな言い方をしているんですけども、ある意味、こういうことに使ってくれるのだったら立川市に喜んで税金を納めようというふうな思いもあるのではないのかなっていうこと、立川市が市民の納税に対してどういうサービスをしているのかっていうことがなかなか見える化していないという問題もあると思います。当然、立川市が市民のためにちゃんと税金を使っているんだということのお知らせの仕方もあると思いますけれども、それは首長としての心意気というかね、気持ちの持ち方として市民

に信頼をされる行政運営を立川市は行っているんだということが市民に浸透すれば、おのずと、立川市の行政運営についてしっかりと注目をしていただけるでしょうし、自分たちが受けているサービスの対価として税金を納税しているんだということをしっかりと意識を持っていただく。そのことによって、返礼品というかたちでの納税ではなく、立川市にそのまま税金を留めていただけるような形になっていってほしいな。という私の心意気。今、信頼されているとかされていないとか調査していないので、立川市の行政に対する市民の信頼度が何%なのかよくわかりません。一度どっかでやってみたいなとは思っているんですけども、ただ行政の長としては市民に対してちゃんと信頼をしてもらえよう行政運営を行っていくということがベースにあって、初めてそういった立川市の行政に対してご協力をいただけるということに繋がっていくのではないのかなと考えて先ほどのようなお話をさせていただきました。

【時事通信社 又坂記者】

わかりました。信頼を高めていくことが大事であると。

【酒井市長】

はい、もうそれは「小さなことからコツコツと」ということだけれども、でもそれは一番大切なことだと思います。市民に対して行政が信頼感があるのかないのかっていうことは、行政運営をしていく上での僕は基礎だと思いますので、そういったことは別にふるさと納税に関わる話だけではなくて、やはり行政に対する信頼感をこれは向上させていくということは、市民サービスを行っていく上での根底だというふうに思っております。

【いいね立川 久米記者】

前の市長さんの記者会見のとき、後ろにある立川市のパネルのところに「立川くらいが、一番いい」があったかと思うのですが。

【酒井市長】

やめました。

【いいね立川 久米記者】

酒井市長の指示で

【酒井市長】

はいそうです。そのころですね。私はそのネーミングは記者の皆さんや市民の皆さん、あるいは市外の皆さんが「立川くらいが一番いい」って言っていただけるのは、それは大変お褒めの言葉なので、いい言葉だと思っています。ただ、行政側が「立川くらいが一番いい」っていうふうに、私どもが発信をしてしまうと、もうそれは現状維持でいいっていう、要はもう新しいこと

にチャレンジをするという意識がなくなる言葉だと僕は思っているんです。だから皆さんが立川ぐらい一番いいよねって言っていただけるのはもう大歓迎だけれども、私どもの方から立川ぐらいが一番いいということは発信したくない。絶えず進化を続ける立川でいたいしチャレンジをしていく立川でありたいと思っていますので、立川くらいじゃなくて、立川が一番だと言ってもらえるような気概を持って立川市政を運営していきたいという思いがあるのでやめました。

【いいね立川】

はい、すっきりしました。

あのコピーを初めて見たときからモヤモヤしていました。

【酒井市長】

多分感覚が一緒なのかな。立川が一番いいって言ってもらえなくちゃねという気持ちでやっていて、初めて2番手とか3番手になれるとね、これぐらいでいいと思った瞬間に退化が始まりますから絶えず進化し続けるという精神が僕は必要だと思っています。

【都政新報 山下記者】

先ほどの昭島の物流センターの件で、事業者さんに対して立川市さんが要請されていたかなと思うのですが、その要請の内容とその事業者さんの回答っていうのはどんなふうであって、市長はどんな興味があるのか教えていただきたい。

【酒井市長】

こちらとしてはあくまでもその交通問題についてで、そこに建てていいとか建てていけないとかっていうのは、他人様の市の領域ですので、とやかく言えない。交通問題については、大変重大な関心と危惧を持っておりますので、その点については、当然当該事業者に対しても要請また地域の声を伝えるということでは担当の方でさせていただいていると思います。ただちょっと回答については私今現在手元にないので、どういう回答があったのかっていうことをこれ事業者さんも皆さんの前で回答していいよという話になっていないと思いますのでその点についてはちょっとご容赦をいただきたいと思いますが、立川市としての先ほど来いただいている懸念事項については東京都に対しても伝えておりますし、また地域の声もしっかりと、機会を作ってお伝えをしていくというスタンスをとっていくことになろうかと思えます。

【東京新聞 松島記者】

さっき一つ引っかけたんですけども、データ・物流センターの話で、西砂小の通学路という話は出していただいたんですが、もう一つ天王橋の交差点がありますね。大変渋滞して、数分で何メートル進むかみたいな場所があると思うんですけどもそこも非常に近い場所で、さらにあそこ渋滞するんじゃないかと思うのですけれども、これを機にどうにかするという事はな

いんですか。

【酒井市長】

天王橋の交差点もあそこ何差路なっているんですかね。私も都議会議員のときから、特にあの南から北に上がる渋滞、東西方向はそうでもないんですよ。南北方向の渋滞が大変激しいということがあって、確かあれは市道だけではなくて都道も入っていたと思うんですけど、交通管理者の警視庁にも何とかならないのっていう話はしたことがあるんですけど、交差点の信号のサイクルで何とかならないかと。ただ、あまりにも南北の直線のところに昭島の方から斜めに上がってきてまた、五日市街道が横切っていて、玉川上水の北側の道があってというところで何とかしたいという気持ちは無くはないのだけれども、そう簡単にはなかなかいかないと。ただ問題意識としては、当然先ほど子どもの安全という観点から、西砂小学校をあえて挙げさせていただいたんですけども、市内の交通渋滞交通量の増加という点から言えば天王橋の交差点の問題等もありますので、そこはいろいろ関係者とも協議をしながら立川市だけがこうという話にもなりませんので、その点についても当然交通量の問題で、環境影響評価書に書かせていただいたところは、そちらの方の部分についても東京都に対しては立川市としても問題意識を持っているということは示させていただいております。

【東京新聞 松島記者】

あそこ別に駅前とか、すごい都心部というわけでもないのにめちゃくちゃ渋滞するんですけども、その最大の原因って何だと思われませんか。

【酒井市長】

最大の原因ですか。僕自身は初め信号のサイクルなのかなって南北の問題かなっていうふうに思っていたんですけど、全てがそこに集中してくるところが問題じゃないですかね。僕もその交通の、専門家ではないので、交通センサスだとかそういったものを見ながら当然警視庁としてもね、あの信号のサイクルは考えているんだろうけれども、最大の問題は南北への交通の抜け道として、あそこが便利だからなのかなと。ゆえに、多分東京都としても今南北の道路の整備立川市内も一つは今、芋窪街道の方の立3・3・30号線の整備は最優先路線としてやっています。また、この市役所の前を通りも広域防災基地の機能を維持するという観点からすると、これの南進の問題もまだ最優先整備路線にはなっていなかったと思いますけれどもこれは喫緊の課題として考えなくては行けないと、とにかくあそこの道を通らなければならないという状況をいかに分散させていくのかということしか、対応はないでしょうし、そこを通ってる方がなんでここ通ってるのっていうのを聞いたことも大変申し訳ないんですけど、ないので正式な実態まではなかなかわからないというのが現状です。

【東京新聞 松島記者】

分散させていく、何か具体策について。

【酒井市長】

今お答えをしているように分散をさせていくときに、要は南北交通が実際に天王橋のところを通っている人たちが、市役所の前の通りまでこちらに流れてきて、南にストレートに例えば奥多摩バイパスなりに流れていけるそういう道ができたときに、分散をするでしょうし、また立3・30号線の方も最終的に現計画では途中の羽衣町で止まってしまっておりますのでそれが昔の甲州街道まで計画としては抜ける計画になっているものができればもしかしたらこちらに流れてきてくれるかもしれない。ということでそれはそれぞれのドライバーさんの心理だとか、目的地によっても変わってくるのかなと。

ただ、今の交通状況から言うと多摩地域においては東西の交通はかなり整備されているけれども南北の道路の整備が遅れているのでこれは立川市だけの問題ではなくて、他の地域においても南北道路の建設促進については東京都に要請をしているというふうに認識をしております。

【酒井市長】

他にありませんかね。よろしいですかね。

こうやって記者さんたちにいろいろと質問していただけるというのは大変ありがたく思っています。この前で撮っているビデオは私が市長になってからは、記者会見切り取りではなくて、記者さんとどういうやり取りをしているのかということも積極的に市民の方に知っていただくということで広報課の方で編集をして立川市の YouTube チャンネルに上げさせていただいておりますので、ぜひどんどん質問していただけるとありがたいと。

これは最終的には記者さんたちにご了解を得られたらですけども、できればこういう記者会見の場を市民の方が傍聴できたら面白いんじゃないのかなって、あの市民からの意見を聞く場はあるのですけれども、記者会見がどういうふうに行われているのかっていうことを、例えば予算の説明をするような機会にどうぞ市民の皆さんも来てくださいと記者さんがどういうふうに質問するのかっていうね、記者さんにとって、もしかしたら後ろからプレッシャーを感じるのかもしれないので、幹事社を通して調整をさせていただいた上になろうかと思うんですけども、僕の中ではそういうふうにしても、あの市長と記者の皆さんとのやり取りを市民の皆さんが YouTube を通しても見ていただいているけど、生で見てもらうというのもなんかね、楽しいんじゃないのかな、なんてことを勝手に考えておりますので、またご相談させていただければと思います。他にないようでしたら、以上とさせていただきます。

どうもありがとうございました。